

次期S I Pターゲット領域有識者検討会議（第1回）（概要）

1. 日時 令和3年10月28日（木）13:00～15:00

2. 場所 オンライン開催

3. 出席者

赤池 伸一 文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席フェロー
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官
五十嵐 仁一 一般社団法人産業競争力懇談会 実行委員長
ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長
小川 尚子 一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部 副本部長
金田 安史 国立大学法人大阪大学 理事・副学長
岸本 喜久雄 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
技術戦略研究センター センター長
倉持 隆雄 国立研究開発法人科学技術振興機構
研究開発戦略センター 副センター長
坂田 一郎 国立大学法人東京大学 総長特別参与 大学院工学系研究科教授
篠原 弘道 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
須藤 亮 内閣府 政策参与・S I Pプログラム統括
橋本 和仁 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
宮澤 伸 日本商工会議所 地域振興部長

4. 配布資料

資料1 次期S I Pターゲット領域有識者検討会議の設置について（令和3年9月30日
ガバニングボード決定）
資料2 次期S I Pターゲット領域有識者検討会議 運営規則（案）
資料3 目指すべき将来像やその実現方策
資料4 「。新成長戦略」の概要
資料5 次期S I Pの課題設定に向けた枠組みの整理

5. 議題

- (1) 次期S I Pターゲット領域有識者検討会議の設置について
- (2) 目指すべき将来像やその実現方策
- (3) 次期S I Pの課題設定に向けた枠組みの整理

6. 議事概要

- (1) 事務局より、資料1、資料2に基づき、次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（以下「検討会議」という。）の設置について説明を行った。
- (2) 検討会議の座長として互選により須藤委員が選任された。須藤座長より就任の挨拶があった。
- (3) 事務局より、資料3に基づき、目指すべき将来像やその実現方策について、小川委員より、資料4に基づき、一般社団法人経済団体連合会の「新成長戦略」の概要についてそれぞれ説明し、議論を行った。
- (4) また、事務局より、資料5に基づき、次期 SIP の課題設定に向けた枠組みの整理について説明し、議論を行った。
- (5) 委員からの主な意見は以下のとおり。
 - ・DXに必要な基盤や国際経済秩序のルール形成は、SIPで取り上げるテーマを実行していく中で、先導的にやっていくべき。
 - ・AIの学習データに対する攻撃などは、いろんな部分に共通的に利いてくる部分なので、共通基盤として取り組むべき。
 - ・激甚化する災害の関係というのは危機意識を持っているが、インフラ整備がなかなか追いついていない。
 - ・高齢化社会の中で、社会参画寿命の延伸が必要であり、ウェルビーイングに重点を置くことが重要。
 - ・SIPの対象は三つの異なる領域がある。①国の意思、戦略やロードマップが明確である領域、②国の大まかな意思はあるが具体的なロードマップまでは至っていない領域、③日本が強みを持つ又はなくてはならない基盤技術といった領域。
 - ・テーマ設定は最初からあまりきちんと決めるのではなく、若い研究者も参加して、議論しながら課題解決力を伸ばすような仕組みを取り入れて欲しい。
 - ・内閣府は本来予算を持たないというのが財政当局の基本的な考え方であり、内閣府が予算を持ってやるからには各省庁を取りまとめることが必須。
 - ・各省の中でも研究開発や研究所を所管している部門よりも本当に実務を担当している部局を巻き込むことが大事。
 - ・資料では基礎、応用、実用化という流れになっているが、一方通行の矢印ではなくプロジェクトをやりながらさらに基礎を深掘するといったいくつかのフェーズが同時並行で起き、出口の充実度を上げるといったモデルを考えられないか。
 - ・基礎研究から社会実装まで一気通貫というのは順番に上げていくのではなくワンチームでやっているのをうまく生かせるとよい。
 - ・大学発ベンチャーでは基礎研究から社会実装や社会課題の解決までつなげたいという意思があるが、SIPではそういったスタートアップをぜひ活用してほしい。
 - ・地方の大学が中小企業の課題を聞いて自治体も巻き込みながら事業化に貢献していこうということは地域でいろいろ行われており、地域にも目を向けるとよい。
- (6) 議論の終わりに、事務局より、今後のスケジュールについての連絡を行った。